

陶器商の蔵

美濃焼の生産販売が盛んになる江戸時代末期。やきもの販売を専門とした商人があらわれます。仲買人と呼ばれるこれらの商人は、のちに陶器商とも呼ばれ、名古屋、江戸、大坂をはじめ、全国に美濃焼を販売しました。

特に現在の多治見市本町オリベストリート沿いには、明治時代になると20軒を超える陶器商が立ち並び、またその周辺には上絵付け業や荷造り業など、関連する業者が多く集まり、街は大変賑わっていました。

本展覧会では、明治時代に活躍した多治見の陶器商の蔵に残っていた資料から、当時の美濃焼の販売や、陶器商の日々の暮らしについて紹介します。



り通町本 (勝名見治多)

戦前の本町オリベストリート (多治見市郷土資料室蔵)

明治時代の多治見

明治時代初期、多治見市域で街並らしい地域は下街道沿いの池田町屋村くらいであったといわれています。池田町屋村では旅客相手の食べ物屋が一番多く、旅籠屋が数軒、それに近在の農家相手の雑貨屋などが並んでいました。

そのころの多治見村(土岐川以南の地域)では、下街道に沿う白土(現上町)、本町(現本町5丁目)と小路町に家が並び、窯(現窯町)と平野に窯屋が7~8軒ずつ散在していましたが明治時代中期頃までに人口が急増し、増加率は県下1位であったとされます。明治7年(1874)には郵便取扱所が設置され、同12年(1879)に第46国立銀行が創設されました。同14年(1881)の多治見村の商業従事者は205軒であったのに対し、同19年(1886)には500軒を超えており、急速に賑わっていったことがわかります。

この発展には幕末から明治時代の美濃焼の生産・販売が大きく関係しています。笠原・下石・駄知・妻木・土岐口・高山などの窯業地でも一挙に美濃焼生産が盛んとなり、当地域はその集散地として栄えていきました。同22年(1889)には東濃唯一の町制を敷き多治見町となり、さらに同33年(1900)に中央線多治見駅が開業すると、さらに発展を遂げていきました。



満留肥商店店員による昭和3年の御大典記念での仮装(個人蔵)



満留肥商店番傘(個人蔵)

陶器商の暮らし

〔江戸時代末期の陶器商の暮らし〕

江戸時代末期の陶器商・西浦屋には本店・江戸店・大坂店にそれぞれ支配人がおり、それを総括する主人が尾張藩や幕府との折衝を行っていました。本店では支配人と11人の奉公人が店を切り盛りしていました。支配人は店の一切の勘定を任せ、20代後半の奉公人を筆頭に子供といわれる10代の奉公人まで、それぞれ係が決められていました。給金は年俸制で、店で積み立てるシステムでした。給金の他に小遣いや衣類、手ぬぐい、下駄、チリ紙などの生活に必要な物資の支給がありました。基本的に住み込みで働きますが、年数を重ねた奉公人の中には所帯を持ち通いで働く者もありました。

〔近代の陶器商の暮らし〕

昭和初期の満留肥商店の資料によれば、店員は主人の息子を筆頭に10代後半から30代までの14名ほどで、旅回りや山方(窯方)回り、荷倉係、荷造り係などの担当に分かれていました。給金は月給制で、店に積み立てをする形は江戸時代と同様で、病院などで大きな出費がある場合は店が立て替えていました。

店の休みは正月三が日のほか毎月1日と15日前後の月2日ほどですが、秋祭りや祇園祭、昭和橋の渡橋式典など町を挙げてのイベントの日は半休となり、店員全員で楽しんだ様子が日誌などからわかります。毎日夜業もあり、遅い時は10時頃まで就業していました。このころには青年訓練所が多治見にも開校され、多くの店員が週2日ほど就業中にでかけ軍事教育を受けていました。戦争中には店から入隊者を出すこともあり、店の主人に宛てた戦地からの手紙や写真も残されています。

また、奉公人の中にはのれん分けをして自分の店を持つ者もありました。独立した後も元の主人との関係は続き、商売での関係はもちろん、葬儀などの有事の際は主人の店の法被を羽織って駆け付けたとされます。



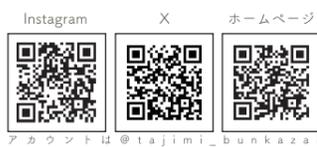
満留肥商店店員(個人蔵)

【主な参考文献】

- 多治見市 1987『多治見市史』通史編下
- 澤井義三郎 1913『多治見町史』
- 水野秀夫 1916『東濃名家録』

【謝辞】(敬称略)

- 加藤彰久 高木典利 春日美海
- 多治見市図書館郷土資料室
- モザイクタイムミュージアム



アカウントは@tajimi_bunkazai

多治見市文化財保護センター企画展パンフレット「陶器商の蔵」

展示期間 : 令和7年1月27日(月)~6月20日(金)

開催場所 : 多治見市文化財保護センター展示室

発行 : 多治見市教育委員会・文化財保護センター

〒507-0071 岐阜県多治見市旭ヶ丘10-6-26

TEL(0572)25-8633 FAX(0572)24-5033

URL <https://www.city.tajimi.lg.jp/bunkazai/>

発行部数 : 600部 印刷費用 99,000円(税込み)

